

公共施設について考えよう ~No.1~

『今、行政は大きな転換期を迎えています。』

公共サービスや公共施設のあり方の見直しが必要です

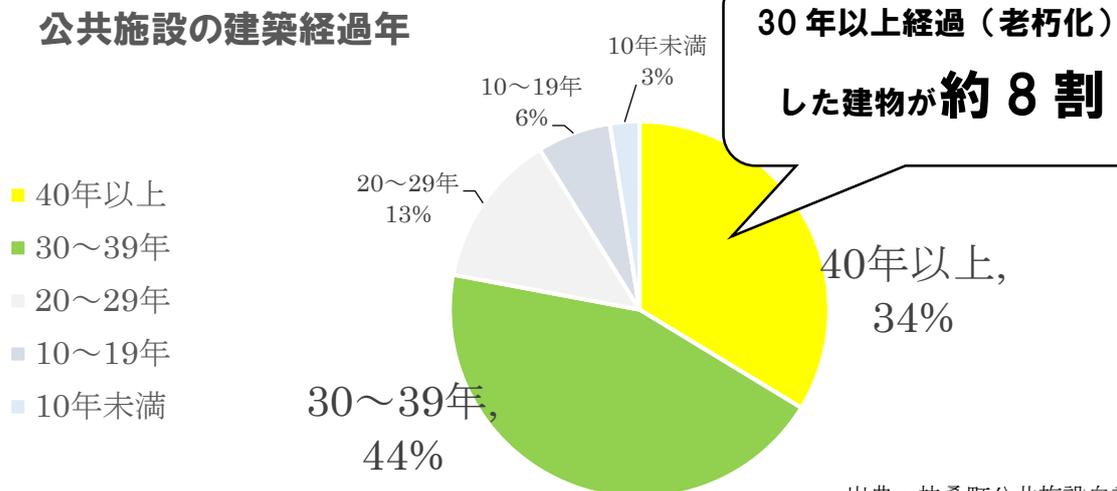
現在、私たちを取りまく社会は少子高齢化を迎え、社会構造が大きく変化しています。それに伴って行政に求められるニーズも変化しており、新たな課題の解決に向けた取り組みを行っていく必要があります。

そのため、従来型の公共サービスのあり方の見直しや、公共施設についても「量から質へ」の転換など、新たな課題解決に向けた手法の見直しが求められています。

『公共施設更新問題』

本町では、役場庁舎や文化会館、図書館、学校、保育園、学習等供用施設などおよそ40の公共施設を保有しています。そのうち、建築後30年以上経過（老朽化）した施設が、全体の約8割を占めています。一般的に30年を経過した建物には何らかの大規模改修を行う必要があるとされ、60年経過した段階で建替えの必要があるとされています。

公共施設の建築経過年



ここで、みなさんにも考えて頂きたいと思います。

○現在の公共施設は来年も使用できるのでしょうか？

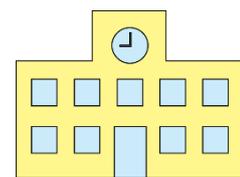
→ たぶん大丈夫です。

○5年後、10年後はどうでしょうか？

→ おそらく大丈夫です。

○では、20年後、30年後はどうでしょうか？また建替えはできるのでしょうか？

→ ??????



(裏面に続く)

多くの方は20年後、30年後も大丈夫だろうと思っていると思います。多くの方が利用している施設なので無くなるはずがないと思っていると思います。公共施設はあって当たり前、今までも何とかあったのだからこれからも何とかなるだろうと思っていることと思います。

しかし、こうした老朽化した施設は一斉に更新の時期を迎えることとなります。今までは、あって当たり前でしたが、これからは当たり前であり続けることが難しくなります。そして、これは決して「扶桑町だけが特殊な町」だから起きているというわけではなく、「**全国の市町村**」において**起きている問題**です。これが「公共施設更新問題」です。

では、なぜ当たり前ではなくなるのでしょうか？次回号では扶桑町の人口の推移と財政状況について考えていきましょう。



これから公共施設をどう利用し、更新していくと良いかを考えていきたいと思います。

【令和元年6月発行】

問い合わせ
扶桑町 総務課 総務グループ
電話 0587-93-1111 (内線214)